

## ロープ長について

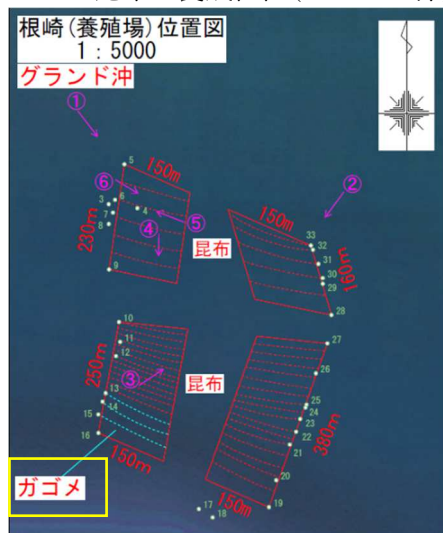
### 1年養殖(促成)の真昆布の養殖ロープ長

本プロジェクトで算出するCO2吸収量は、1年養殖(促成)の真昆布を対象とする。漁業者へのヒアリングと現地調査の結果、施設全体の大きさ(幹綱延長と施設台数)は以下の通りであった。施設延長には1年養殖(促成)のガゴメ昆布が含まれていたため、漁業者へのヒアリングと現地確認により1年養殖(促成)ガゴメ昆布に使用されている施設を特定した。

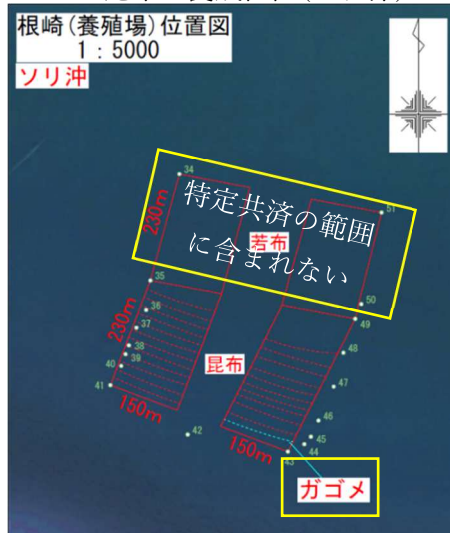
### 施設全体の様子



### ガゴメ昆布の養成位置(グランド沖)



### ガゴメ昆布の養成位置(ソリ沖)



緑色の線がガゴメを養成した部分。数字は GPS 測定箇所。○囲みの数字は写真帳の数字。

詳細はファイル「5.現地調査方法について」参照

## 実測による施設延長

実測値				促成真昆布		促成ガゴメ昆布	
漁業者名	施設(m)	台数(台)	m/台	長さ(m)	台数	長さ(m)	台数
A	675	4.5	150	525	3.5	150	1.0
B	1,080	9.0	120	1,080	9.0	0	0.0
C	720	6.0	120	720	6.0	0	0.0
D	720	6.0	120	720	6.0	0	0.0
E	720	6.0	120	720	6.0	0	0.0
F	360	3.0	120	360	3.0	0	0.0
G	2,160	18.0	120	2,160	18.0	0	0.0
I	540	4.5	120	540	4.5	0	0.0
J	720	6.0	120	720	6.0	0	0.0
K	1,080	9.0	120	1,080	9.0	0	0.0
L	675	4.5	150	675	4.5	0	0.0
M	1,080	9.0	120	1,080	9.0	0	0.0
N	1,440	12.0	120	1,440	12.0	0	0.0
O	450	3.0	150	0	0.0	450	3.0
合計	12,420	100.5		11,820	96.5	600	4.0

実測値を函館市漁業協同組合根崎支所の原本謄写による「特定養殖共済契約通知書」と比較した結果、対象とする施設台数に差がないことが確認できた。

このことから、本プロジェクトで対象とする1年養殖(促成)の真昆布の施設台数は、全体の台数100.5台より1年養殖(促成)のガゴメ昆布を養成する施設4台を除いた96.5台とした。

施設延長については現地調査の結果「特定養殖共済契約通知書」よりも実際の施設の方が大きいという結果になった。

## 「特定養殖共済契約通知書」(一部)

「特定養殖共済契約通知書」のまとめ

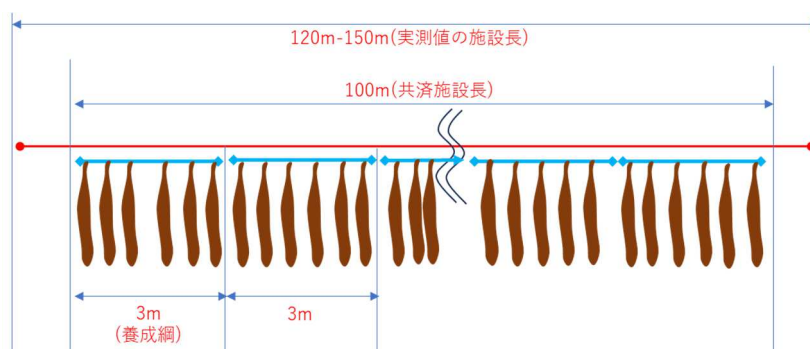
特定養殖共済契約通知書				促成真昆布		促成ガゴメ昆布	
漁業者名	施設(m)	台数(台)	m/台	長さ(m)	台数	長さ(m)	台数
A	450	4.5	100	350	3.5	100	1.0
B	900	9.0	100	900	9.0	0	0.0
C	600	6.0	100	600	6.0	0	0.0
D	600	6.0	100	600	6.0	0	0.0
E	600	6.0	100	600	6.0	0	0.0
F	300	3.0	100	300	3.0	0	0.0
G	1,800	18.0	100	1,800	18.0	0	0.0
I	450	4.5	100	450	4.5	0	0.0
J	600	6.0	100	600	6.0	0	0.0
K	900	9.0	100	900	9.0	0	0.0
L	450	4.5	100	450	4.5	0	0.0
M	900	9.0	100	900	9.0	0	0.0
N	1,200	12.0	100	1,200	12.0	0	0.0
O	300	3.0	100	0	0.0	300	3.0
合計	10,050	100.5		9,650	96.5	400	4.0

実際の施設の大きさと「特定養殖共済契約通知書」の施設延長の差について  
 実際の施設には養殖に使用しない「施設を固定する部分」が含まれることが原因であることが確認できた。本プロジェクトでは「養殖昆布漁を営む施設の延長」として保守的に見積もるため「特定養殖共済契約通知書」の施設延長が適当と判断した。

## 施設の構成

根崎支所管内の養殖施設は施設(幹綱)と養殖昆布が着生する養成綱で構成される。

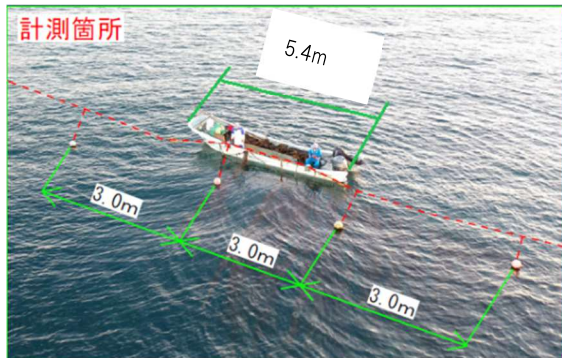
## 養殖施設の構成図



## 養成綱の長さ

「特定共済契約通知書」より本プロジェクトでは1施設(幹綱)の長さを100mとした。(ア)

漁業者へのヒアリングおよび現地確認の結果、種糸が取り付けられた養成網1本の長さは3m（イ）で養成網は幹網に対して平行に端部2か所を固定し取り付けられることから、1施設の養成網の本数は、 $100\text{m} / 3\text{m} = 33\text{本}$ であった。（ウ）



#### 施設台数の調整

本プロジェクトでは施設(幹網)は1台(100m)と定義し対象とする施設台数を「特定養殖共済契約通知書」の96.5台から端数0.5を除いた96台（エ）とした。

#### 養成網のロープ長

1施設(幹網)あたりの養成網の長さ

養成網1本の長さ（イ）×1施設(幹網)あたりの養成網の本数（ウ）

$= 3\text{m} \times 33\text{本} = 99\text{m}$ （オ）とした。

以上より、本プロジェクトで対象とする養成網の延長(=ロープ長)は、

1施設あたりの養成網の長さ（オ）×対象とする施設の数（エ） $= 99\text{m} \times 96\text{台} = 9,504\text{m}$   
とした。